

# Medical Technology News

# 臨床検査室新聞

## LOOK



### 輸血前の感染症検査と検体保管

近年、安全対策の推進により、輸血用血液製剤の安全性は非常に高くなっています。日本赤十字社では、肝炎ウイルス（B型、C型）、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）、梅毒、ヒトTリンパ球向性ウイルスI型（HTLV-I）などの病原体について抗体検査や核酸増幅検査などを行い、安全性を確認しています。しかし、非常にわずかではありますが副作用を完全に回避することはできません。

輸血を受ける前に、感染が無いことを確認するためにB型肝炎、C型肝炎の検査の実施が望まれています。また、検査を行うことが難しい場合も輸血前の検体を保管しておくことで輸血による感染か否かを確認することができます。輸血前検体の保管は輸入感染症、未知の病原体に対する輸血感染症の原因究明にも重要です。

当検査室でも、輸血前の検体を-20℃以下で2年間冷凍保存しています。



今回は脱水と循環器系の関係を書きたいと思います。左図は、人の体内での水分の流れを説明しています。

## 脱水にご注意！

まだまだ暑いですよ！



夏場の高温多湿の環境や過剰な運動による発汗は、体表面の血管を拡張させ、血流を増加させます。結果として内臓への血流を減少させます。人の体は内臓への血流を補うために心拍数を増加させるので、心臓に負担をかけます。そこに、暑さにより脱水となると、血液が濃縮され、ドロドロな状態になります。ドロドロ血液は狭くなった冠状動脈（心臓を構成する筋肉に血液を送っている大事な血管）などで、詰まりやすく、狭心症を誘発します。また、急性心筋梗塞が発生しやすい時間帯が睡眠中です。この時間帯は脱水になりやすく、また、血圧がさがり血流が遅くなっているため、血管を固める役割の血小板が血管内にかたまりやすく血栓をつくるためです。脱水にならないためには水分補給が一番大事ですが、基礎疾患のあるかたは医師と相談したうえで、

**チェック!**

### NASH (ナッシュ) とは?

(non-alcoholic steatohepatitis)

#### 非アルコール性脂肪性肝炎

左下の図は、非アルコール性脂肪性肝炎（NAFLD）のスクリーニングの流れです。NAFLDの患者のうち約10%が非ア



お酒の飲みすぎは脱水になりやすい危険があるのでほどほどにしましょう！

判断してください。今年の夏を元気に乗り切りましょう。

2013年 8月  
第48号  
発行元 八雲総合病院  
臨床検査室

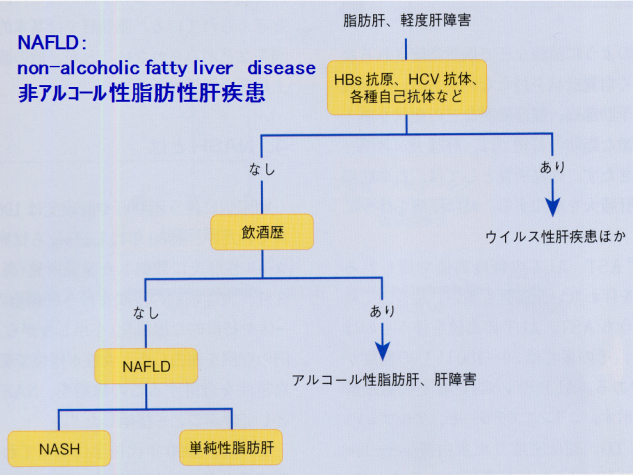


## ほと time

### 今は「死語」になった昭和の流行語

C調・調子良い人や調子良いさまを表わす言葉。  
ワザトラマン・言動がわざとらしい人のこと。  
チウイ・「今風な」「いかした」という意味。  
シエー・驚いた時に発する感動詞。

今の流行語は「バズバズ...」でしょうか？！



アルコール性脂肪性肝炎（NAFLD）を発症すると言われています。NASHとはアルコールが原因ではない肝障害であり、肝臓が炎症や線維化をきたし、肝硬変や肝臓に至る例もある疾患です。NASHの発生機序としては、肥満や糖尿病、脂質異常症に伴う脂肪肝がまず発症し、腸内細菌叢が関与しつつ何らかの形で酸化ストレスが肝細胞に加わり肝炎を引き起こすとされています。診断は血液検査や超音波・画像診断、病

## BUN (尿素窒素)

基準値：8.0~20.0mg/dl

BUNは、血液中に存在する尿素に含まれる窒素分を測定したものです。主に腎機能検査として用いられますが、蛋白異化亢進状態、消化管出血、脱水、ショック、肝疾患などの場合にも補助的な検査として用いられています。

**高値**—高蛋白食、アミノ酸輸液、体組織の崩壊、腎機能障害、尿路閉塞、循環血液量低下など

**低値**—低蛋白食、劇症肝炎、肝硬変末期、強制利尿（マンニトール利尿、尿管閉塞など）、妊娠など

## 検査の基本

## 編集後記

アツイ！あつい！暑い！暑い！暑い！  
そう感じているのは私だけでしょうか？みなさんはいかがお過ごしですか？私の最近のブームは家の前のウッドデッキで少し高いお肉を炭火で食べることです。まだまだこの暑さ続きそうですが、体調と相談しながら、アウトドアに挑戦したいと感じるインドアの私でした。

